



能登島 向田の火祭

燃え上がる巨大松明に、豊漁・豊作を占う



日本三大火祭りの一つと言われ、
「能登島向田の火祭」が行われ、
高さ30メートルの大松明が、天に届
かんばかりの巨大な火柱となり観衆
を魅了した。

伊夜比咩神社から出発した神輿と
大小合わせて5基の奉燈は、地元の
園児や児童が作ったあんどんが灯る
道を進み、火祭の舞台となる広場へ
入場。鳴り響く太鼓や鉦の音と共に
大松明の周りを駆け巡ると、観衆の
期待もだんだんと高まっていく。

神輿と奉燈が広場を離れると、次
はいよいよ火入れの時間だ。火のつ
いた手松明を持った若衆が現れる
と、観光客らもそれに続く。昨年は
地元住民のみに制限されていたが、
4年ぶりの通常開催で、たくさん
の人が列に加わり、手松明を回しなが
ら大松明の周りを練り歩く。

鳴り響く笛を合図に、若衆らが手
松明を投げ入れると、瞬く間に巨大
な火柱と化す大松明。その圧巻の光
景は、見守る観衆も思わず息をのむ
ほどだった。

夜空を赤く照らす火柱が、炎の勢い
を一層強めてから、わずか1分。支柱
が崩れ、大松明が傾くと、広場の熱気
は最高潮に。豊漁を示す海側へ倒れる
と、観衆から拍手が湧き起り、祭り
はクライマックスを迎えた。